

Newsletter

2013 年 4 月 群馬大学工学部は **理工学部** に生まれ変わります。
そして、工学系技術部も **理工学系技術部** に生まれ変わります。

【挨拶】

平成 25 年度、群馬大学理工学部は新たなスタートを切りました。技術部においても理工学系技術部と名称が変わり、その責任者として統括技術長の任命をいただきました。

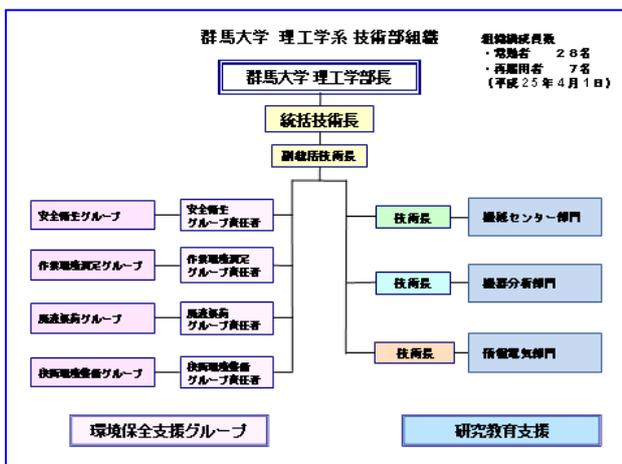
社会に目を向けると様々な技術が日々進歩を続けており、それに関連した業務に携わる技術職員としてのスキルについても、日々高めてゆくことが求められていることを痛切に感じます。

群馬大学理工学系技術部としても、常に社会と未来に目を向けながら個々の技術を磨き、教員、学生、そして地域社会にどれだけ貢献できるかというところに喜びと充実感を見いだせるような能動的な技術者集団を目指してゆきたいと思えます。

微力ではありますが、力合わせて技術職員の名に誇りを持てる技術部を作ってゆく決意しておりますので、ご協力量りしくお願い申し上げます。

平成 25 年 4 月 1 日統括技術長 尾池弘美

新体制 及び 新ホームページ



AEDによる救命講習会 盛会にて終了

標記、桐生事業場 安全衛生委員会主催（技術部安全衛生グループで担当）で平成 24 年 11 月 14 日（水）13：30～16：30 の 3 時間に亘り、体育館柔道場にて開催された。

昨年度から受講対象を学生まで広げ募集したところ、30名ほどの応募を受け、桐生市消防本部より3名の講師を派遣戴き盛会であった。平成 23 年度から心肺蘇生法が人工呼吸より、胸骨圧迫（心臓マッサージ）が重要とされ、効果的な蘇生を行うには、早急に十分な強さと十分な回数の胸骨圧迫を絶え間なく行うことが肝要であるとされた。受講者は皆真剣に講習に聴き入り、実践しながらの実習であった。講習会修了者には毎回好評をいただいております。まだ未受講の方、数年前に受講された方、救命法も年々進化しておりますので、次回の受講を是非お奨めします。

講習会を開催するにあたり、ご協力いただいた関係者の皆様、またご支援戴いた群馬大学科学技術振興会には感謝申し上げます。以上

文責：藤生



「第11回群馬大学工学系技術部技術発表会」開催報告

群馬大学工学系技術部は、9月4日（火）に4大学1高等専門学校1研究機構を含む70名の参加をいただき「第11回群馬大学工学系技術部技術発表会」を開催いたしました。

はじめに高田邦昭学長、板橋英之工学部長より技術発表会を開催していく上で励ましの言葉となるご挨拶をいただきました。

午前の特別講演では電気電子工学専攻の本島邦行教授より「電波を用いた短期地震予知への挑戦」について講演をいただきました。電気電子を専門としている分野で地震予知との関連のお話を非常にわかりやすく解説いただき、また1年半前の3.11についてどのような現象が出たのかなど非常に興味深く聴講することができました。

また、午後の特別講演では応用化学・生物化学専攻の相澤省一教授より「原発事故後の1年半を振り返って」について講演をいただきました。相澤先生のお話も3.11に関するお話でしたが、近年でも関心度の高い原発事故における放射性セシウムについて先生が行ってきた調査などについて、わかりやすくお話いただき、現在の群馬近隣の状況など大変勉強になりました。

技術関連発表の部では、午前中2テーマ、午後5テーマの合計7つの発表とポスター発表が活発に行われ、たくさんの方々に発表を聞いていただくことができました。

最後に閉会の挨拶として、飯塚靖子技術部長より今回参加いただきました他大学、他機関の方々へ感謝の言葉を述べられ、技術発表会が閉会されました。

その後、工学部内の生協（桐園）にて短い時間でしたが懇親会が行われ、特別講演いただきました先生方の挨拶も交えながら、参加いただいた他大学・他機関の方々との交流を深めることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今回初めて、技術発表委員として発表会に参加して、たくさんの大学・他機関の方々とも接する機会もあり、発表会を通じて情報発信を行うだけでなく、お互いの大学・機関等の情報交換などの場でもある有意義な会であることを感じました。関係者各位に一委員としてお礼の言葉を申し上げるとともに、今後も技術発表会が今まで以上によりよい会となるように尽力していきたいと思われました。

文責：齋藤



地域貢献委員会外部イベント報告

大学広報からの依頼で大間々南幼稚園にて学期始業式に合わせて科学イベントを行った。

委員会としては園児を対象とするイベントは初めてで対応に苦慮したが受ける事とし、展示内容を園児向けに変更して行った。

園児は思ったより統率がとれていてイベントとしては成功した。

また年長（5歳児）を対象に工作も行い、好評であった。幼児に対するイベントは不安もあったが実際は反応も良く、科学的な不思議を印象づけることができたと確信する。

また、園長からは年2回ほどの科学イベントの開催を依頼された。

日時：平成25年1月9日（水）10時30分～11時15分
場所：学校法人マイトリー学園大間々南幼稚園
演目：空気砲、静電気で空中に浮かぶタコ、くるくる落下傘（工作）

参加人数：約150名（3歳、4歳、5歳児+職員）

文責：石川

